

## 2013年度群馬県卓球ベテラン会総会議事録

期 日 2013年5月12日(日) 16:00~17:40

会 場 みなかみ 上牧温泉 辰巳館

出席者 針谷正紀、高見澤隆、都野實、中野源一、石田正太郎、村田隆、若林孝範、湯浅正幸、佐々木修一、金井正巳、市川英、筑井幸一、高橋茂樹、坪井徳一、瀬間勝利、松井賢子、高橋利通 長南秀雄、井上純市、相崎素子、武藤友美、木村文恵、栗原和子、羽鳥和典、井上和三、佐々木明、養田信行、青山博幸、大貫千都子、小倉幸子、大澤正道、木村順年、塩澤典茂、竹田勝利、小林公子、田中美代子、岩井孝夫、岩崎桂治(及川代理)(38名)

司会・記録 若林孝範事務局長

### 1 開会の辞 高見澤隆副会長

### 2 挨拶 針谷正紀会長

- ・今回の参加者は、やむなく欠席した方もいるが、例年になく多い。
- ・本会も初代会長の10年の後、私が引き継いだ形になって40年近くになる。
- ・この間卓球愛好者のニーズに応えることで様々な創意工夫をしながら活動が充実してきたと思う。
- ・現在年13回の大会、5回の会議等を開催しているが、昨年度の大会参加人数は3200名近くであり、登録人数は1200名を超えており、ベテラン卓球大会のジャンルでは群馬県卓球ベテラン会は日本一だと言ってくれる卓球ジャーナリストもいる。
- ・役員は万難を排して大会に出場し、運営に参加し、自ら卓球を楽しむというのが本会の大原則である。
- ・他の大会と重なった場合、本会の大会参加を優先して頂きたい。
- ・第1回全国ベテランオープン卓球ぐんま大会の準備はすでに始まっている(横断幕、立て看板等)が、役員皆さんの協力では是非とも成功させたい。最低300名は集めたい。来年以降は2日間の日程を考えているが、そのためにも今年の成功が大切である。周囲の皆さんの働きかけて欲しい。従来の延長線上で考えるのではなく、新しい発想で懸命に取り組んでいただきたい。
- ・2013年度は今までにない重要な年度であると思います。皆さんが十分に力量を発揮して、群馬県卓球ベテラン会のさらなる発展の年になれば幸いです。

### 3 議長選出 若林孝範事務局長

### 4 議事

#### (1) 2012~2013年度補充役員について 針谷正紀会長

木村順年(高崎)、塩澤典茂(前橋)、竹田勝利(伊勢崎)、小林公子(藤岡)、田中美代子(伊勢崎)、岩井孝夫(佐波)、岩崎桂治(前橋)、市村順子(伊勢崎)、牧泰敏(高崎)

#### (2) 2012年度事業報告 村田隆理事長

- ・2013年度群馬県卓球ベテラン会総会議案書による

#### (3) 2012年度収支報告 市川英会計担当理事

- ・2013年度群馬県卓球ベテラン会総会議案書による

#### (4) 2012年度会計監査報告 佐々木明監査

- ・2013年度群馬県卓球ベテラン会総会議案書による

#### (5) 2013年度事業計画案(予算案含む) 村田隆理事長

- ・2013年度群馬県卓球ベテラン会総会議案書による

## 5 討議

### (1) 群馬県マスターズ卓球大会と群馬県ベテラン卓球大会の参加資格の問題

- ・本年度の要項では、群馬県に在住・在勤でない人でも県内のクラブに登録すれば出場できる。
- ・在クラブの定義がはっきりしていないこともある。
- ・在クラブの条件として1年以上とかの制限をつける方法もあるのではないか。
- ・群馬県卓球協会登録とは関係ないのでそれを条件に入れることはできない。
- ・在クラブというのは取ってしまい、在住・在勤だけにすればすっきりしていいのではないか。
- ・家を群馬と埼玉の両方に持っている人もいるようだがどこまで厳密にやるべきなのかどうか。
- ・マスターズ卓球大会は主催に「群馬県」に入っており、群馬県にしっかり関係していないと困る。在住・在勤ということで在クラブをはずす方向でよいのではないか。

### (2) 群馬県マスターズ卓球大会と群馬県ベテラン卓球大会における新卓球の種目数の問題

- ・60歳以下の参加が最近増えている、シングルの種目を増やせてもらえないか。
- ・ダブルの種目をもう少し細かい区分けでやってもらえないか。
- ・硬式を含めて、全体の種目が40近くになっているので賞状等問題が生じる可能性がある。
- ・ぐんまアリーナの場合で、硬式との関連で10コートまでは新卓球に割り当てられるが、その台数で消化できるかどうか。
- ・新卓球のチームは群馬県に31あるが、ベテラン会の大会に出てくるのは5～6チームだ。それはベテラン会の試合について知らないからだ。
- ・10コートあればかなりの人数でもやっていけると思う。

### (3) 新設の第1回全国ベテランオープン卓球ぐんま大会に関連して

- ・「全国大会でレベルが高いから出場を見合わせる」というような考えは払拭するべきだ。
- ・どういうレベルの人でもこのような大会に出場して自分の競技力を高めていくことが大切だ。
- ・最低300名は集めたい。現在50名ほどの申込みだがシンガポールからも参加する。来年以降500名くらいを目標にしていけないか。
- ・他の大会とバッティングしてしまうという問題もある。
- ・本部の位置、受付の場所等工夫する必要がある。
- ・アリーナ常備のネットアSEMBリがよくない。何とかならないか。
- ・記念になるもの(バッジ等)を参加者に配るとか、スタッフ用Tシャツを作るというようなことはどうか。
- ・実行委員会を立ち上げ、具体的につめていく必要がある。

### (4) 強化リーグ大会で棄権があった場合

- ・日本卓球ルールに基づいて、得点制(勝ち2点、負け1点、棄権0点)で決めるしかない。
- ・棄権がでた場合(特に途中で)、勝敗ではなく、必ず得点制で順位を決めなければならない。

### (5) 若年の参加者が減ってきている問題。

- ・少子高齢化、余暇の過ごし方の変化、仕事の多忙化など、原因はいろいろあるだろうが、若い人の参加者が減ってきている。このまま先細りしていくのかと危機感をもっている。
- ・若い人にアピールしていく方法を考えていかななくてはならない。
- ・全国的に見て30歳以上を対象としているベテラン大会は少ないが、群馬では30歳以上を守っていきたい。30歳になったので参加してきた人もいる。横に広げていくことが大切ではないか。
- ・宣伝用パンフを作るという方法もある。

## 6 閉会の辞 都野實副会長